

誰もがキラキラ輝く 「光」年齢社会を目指して



「白鳥会」の皆さん。マスク越しでも伝わるキラキラした笑顔が素敵でした。(写真左上は手づくりかりんとう)

令和3年現在、国民の3〜4人に一人が65歳以上という超高齢社会です。このような社会の中で、年を重ねながら自分らしく暮らしていくにはどのようなことが大切でしょうか。その答えはさまざまですが、やりがいを持って生活をするのもそのひとつではないでしょうか。今回は70〜80代のメンバーで元気に活躍する、八女市矢部村「白鳥会」の皆さんにお話を伺いました。

鳥会」の皆さんにお話を伺いました。

Q. 白鳥会の発足と活動について教えてください。

A. 主に矢部の特産物を販売しています。平成元年から始めてもう33年になります。

当時、矢部にはまだそういったグループがなかったので、矢部の魅力を広めたいとの思いで、近所の農業仲間が集まって立ち上げました。ゼロからのスタートだったのですが、当會長だった栗原さんの「なせば成る」という言葉を胸に皆が協力して一丸となり、魅力ある商品開発のために、他県まで勉強しに行くなど積極的に頑張ってきました。

現在は主に手づくりのよもぎまんじゅうやかりんとうなどを直売所やスーパーに卸しています。

Q. 商品の特色や大切にしている思いをお聞かせください。

A. 農業で培った経験を生かして、どの商品も原材料にこだわり、素材の味を大事にしています。地域

で採れた、安心安全な食べ物を提供し、お客さんに喜んでいただくことがとても嬉しいです。

Q. 30数年続けてきて、苦労はありますか。長く続く秘訣も教えてください。

A. 特に苦労は感じませんでした。会員同士、皆思いやりがあつて、とても仲良しです。売り上げうんぬんより、とにかく一緒に活動することが楽しく、生きがいになっています。作業をするにも、細かい決まりはなく、各自の判断で動いています。お互いに信頼関係ができていたので衝突することはありません。できることを無理のない範囲で楽しみながらやる、ということが長く続けてこられた秘訣なのかもしれません。

Q. 今後はどのような目標をお持ちでしょうか？

A. 何か新しいことを始めるというよりは、今まで自分たちが続けてきたことや学んできたことを次の世代に引き継いでいけたら、と考えています。

コロナ禍にある今は活動も控えています。商品販売を待っていてくれるお客さんから届く声は何よりの励みです。コロナ収束後には、また体の続く限り活動を頑張っていきたいと思っています。

で、どうぞよろしくお願います。

いつまでも輝けるまちへ

終始和気あいあいと話して下さった白鳥会の皆さん。お互いを認め合い尊重する、このような人と人のつながりが生きがいとなり、心豊かに暮らす原動力となることを教えてもらいました。

また、皆さんが長年培ってきた経験・知識・技術は尊い財産です。その継承は地域社会にとっても大きな力となるでしょう。

令和3年4月には「改正高齢者雇用安定法」が施行されました。これは少子高齢化による人口減少が進む中、働く意欲と能力のある人が年齢に関わらず活躍できる社会の実現を目指し、その環境づくりを目的のひとつとした法律です。

「人生100年時代」を見据え、今後ますます高齢者の生き方も多岐にわたっていくことが予想されます。これまで年齢を重ねてきたからこそできることや、新たな目標に向かって、自分の意思で仕事に励んだり趣味や勉強に挑戦したり、誰もが自分らしく輝きながら年を重ねていける——そんな社会を築いていきたいですね。